

かつどう 部会

部会長 森と木 三井絵美子 _____ 副部会長 エコーンファミリー 山本雅晃 _____
 副部会長 廣望会 小林真由美 _____
 運営委員会担当者 岸田隆 _____ ケアマネ連絡会担当者 伊藤清孝 板倉重彦 _____
 長野市障害福祉課担当者 石坂三由里 _____

1、 年間テーマ

生活介護事業所連絡会、地域活動支援センター連絡会にて共通の課題を共有し、情報交換を通し相互関係を築く。それぞれの事業所やサービスの在り方と意義を深める機会とする。

2、部会等の開催状況

日時		会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
月	日				
7	22	森と木	15	生活介護事業所連絡会	2つのテーマ「看護師どうしていますか?」「入浴について」に分かれてグループディスカッション
10	20	ふれあい福祉センター	15	地活連絡会	地活の現状と課題について事前にアンケート提出、当日結果報告 グループディスカッション
2	3	ZOOM	未定	研修会	「行動障害の見方」をテーマにzoomにて講義とグループディスカッション
2		森と木		まとめ	

3、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

・地活連絡会で使用する、地域活動支援センターの利用者の状況と活動実態、運営課題に関するアンケート

4、課題について

(1)主な検討課題

<地活連絡会>

ここ数年にわたり継続して「地活のあり方」をテーマに連絡会を進めてきた。実際に地活の枠組みも変化しているなかで、このテーマをどう進めていくかが検討され、各事業所の現状把握を行い、そこから様々な事柄を抽出することとした。それにより利用者さんの障がい種別や手帳の取得状況、高齢化、引きこもりの方も含めて変化している現状を確認することができた。今後、ここからどう進めていくかは検討が必要である。

<生活介護事業所連絡会>

通所する利用者の高齢化が進むなど、生活介護事業所が担う役割も変化してきている。また生活介護で行う仕事のあり方や入浴介助など長年課題が山積している。そこで、テーマを絞り各事業所間で現状把握と意見交換を行い、今後の生活介護のあり方を改めて検討する。

(2)検討の目的と結果(現状)

<地活連絡会>

- (目的)今後の地活のあり方を検討していく上で、各事業所の現状を知り、どのような課題、困難さがあるのかを確認する。
- (結果)各事業所へアンケートを行い、障がい種別や手帳の所得状況、生産活動(工賃の有無)、創作活動などの内容を知ることができた。そこで各事業所の特色があり、支援の形が複雑であることが伺えた。この結果をもとに「地活のあり方」をどう検討していくか、なにを主として進めるかも検討が必要である。

<生活介護事業所連絡会>

- (目的)テーマに沿ってグループワークを行い、生活介護事業所の実態と課題について情報交換を行う。
- (結果)今年度は①看護師の配置の実態や業務内容②入浴について2点にテーマを絞り、グループディスカッションを行った。その結果、どちらのテーマにおいても事業所の実態に現状の枠組みが合っていない事が改めて浮き彫りとなった。①については看護師と支援員を兼務することの難しさや人材確保の困難さ等②についてはコロナ禍において清潔保持の困難さ、利用者の要望に答えきれていない等である。

令和4年度 事業報告

<研修会「行動障害の見方」>

「行動障害の見方」をテーマに長野圏域発達障がいサポート・マネージャー岸田氏より講義いただいた。研修後のグループワークでは行動障害の人を事業所で受入れるにあたっての課題と課題解決に向けての条件について考えた。

(3)引き続き検討が必要とされる課題

<地域活動支援センター>

・地域活動支援センターでは多様なニーズがあり応じきれない現状がある。今後も利用されている方の状況把握、スタッフ体制、支援方法など地活のあり方について検討が必要のため、年に数回の連絡会を開催したい。

<生活介護事業所>

・生活介護事業所は、働く場所や機械浴で入浴できる場所など様々な目的で利用されている方がいる。それぞれの施設の情報を共有し、強みや在り方・課題について話し合う場所を作る。

・強度行動障害・医療的ケアの方が地域で受入れ可能な事業所が少ない状況がある。施設の空き状況含め、年に数回の連絡会の中で情報共有し話し合っていきたい。

<研修会>

・スキルアップのための研修会について、どのような要望があるか把握し実施する。

(4)部会の運営体制について

・かつどう部会執行部役員会 年 5 回開催(年間計画、地活・生活介護各連絡会の企画など)

・地活連絡会 年 2 回開催

・生活介護事業所連絡会 年 2 回開催

・障害理解のための学習会 年 1 回開催

令和4年度 事業報告

5、総括(1年間を振り返って)

・今年度の連絡会は、生活介護事業所連絡会 1 回、地活連絡会 1 回、計 2 回の開催になった。各連絡会テーマを決め企画した事で、テーマに興味ある事業所が積極的に参加し、情報の共有・交換、課題について等話を深めることが出来た。

地活のあり方について、今年度は地活を利用する方の情報や運営の課題等について話をした。活動形態や地域性により、強みや課題は様々であったが、共通する課題については次年度も引き続き検討していきたい。

生活介護事業所について連絡会では各事業所の紹介と看護師配置や入浴支援について情報を共有し課題について話し合った。各法人の中で共通した課題と事業所それぞれの課題があり、引き続き話題にあげながらも話をしていきたい。

今後も様々な課題をかつどう部会の中で話題にする事で、課題の把握と解決への糸口に繋がればと思う。

・研修会「行動障害の見方」Zoom で研修を行い、多くの事業所に参加いただけ良かった。

R4 年度地域課題WG 中間報告書

提出日 令和 5年 3月 2日 WG名 かつどう部会

問合わせ先

テーマ 地活のあり方検討（想定する対象者、高齢化問題、スタッフ体制の問題等）

話し合った内容・得られた結果	今回のテーマ・新たな課題	今後の方向性
<p>・ここ数年にわたり継続して「地活のあり方」をテーマに連絡会を進めてきた。長野市障害福祉課より、事業についての説明や情報提供をいただく機会を設け、情報交換をすることも行ってきた。実際に地活の枠組みも変化しているなかで、このテーマをどう進めていくかについても検討、各事業所の現状把握を行った。アンケートを取るなどして様々な事柄を抽出し、利用者さんの障がい種別や手帳の取得状況、高齢化、引きこもりの方も含めて変化している現状を把握することができた。</p>	<p>・現状把握をしたが、「地活のあり方」についてどう結び付けていくかままでは至っていないため、今後、継続検討する必要があるといえる。</p>	<p>■ 継続</p> <p>□ 施策化</p> <p>□ 再WG化</p> <p>□ 終結</p>

※提出先：長野市障害ふくくしネット（協議会）事務局 長野市南部障害者相談支援センター メール：fnnet@hynet.sakura.ne.jp

R4 年度地域課題WG 中間報告書

提出日 令和 5年 3月 2日 WG名 かつどう部会 問い合わせ先

テーマ 通所施設（生活介護・就労B）のあり方（居場所として望む利用者もいる）

話し合った内容・得られた結果	次回のテーマ・新たな課題	今後の方向性
<p>・しごと部会と共同での取組みの予定であるが、コロナ禍ということで進めることができなかった。</p>	<p>・継続して取り組む必要がある。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 施策化</p> <p><input type="checkbox"/> 再WG化</p> <p><input type="checkbox"/> 終結</p>

※提出先：長野市障害ふくしネット（協議会）事務局 長野市南部障害者相談支援センター メール：fnnet@hynet.sakura.ne.jp

R4 年度地域課題WG 中間報告書

提出日 令和 5年 3月 2日 WG名 かつどう部会 問い合わせ先

テーマ 行動障害を受け入れる事業所が少ない

話し合った内容・得られた結果	次回のテーマ・新たな課題	今後の方向性
<p>・くらい部会と共同での取組みの予定であるが、コロナ禍ということで進めることができなかった。</p>	<p>・継続して取り組む必要がある。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 施策化</p> <p><input type="checkbox"/> 再WG化</p> <p><input type="checkbox"/> 終結</p>

※提出先:長野市障害ふくしネット(協議会)事務局 長野市南部障害者相談支援センター メール:fnnet@hynet.sakura.ne.jp